

概 要 報 告

実施期日	8月5日(月)
部 会 名	中学校 保健体育部会

神奈川県研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

テーマ

『協働的な学び ～自分とは異なる考え方に対話を通して触れながら学びを深める～』

提案概要

【単元】 心身の機能の発達と心の健康（ストレスによる健康への影響・ストレスへの対処の方法）

【学年】 第1学年

【研究の概要】

本研究テーマを通して、学校が目指す生徒像を意識しながら、最終的には自分たちで選択する力（思考力、判断力、表現力等）を養い、たくましく生きる力を育てていきたい。そこで、見通し・行動・振り返りを繰り返すAARサイクルを使って、学びの自己調整力を高める内容とした。

【研究の実践】

・AARサイクル

Anticipation(見通し→単元を貫く問い)：今後実生活に行かせる課題設定

ストレスがたまった「心」をビーカーと色水を使って実験を行う。

思わず思考したくなるようなしかけ・・・「実験をします」という始め方、様々なストレスと見立てた色々な色の色水により、子どもたちがワクワクしていた。

Action(行動→挑戦)：相談を「する側」と「される側」に分かれてロールプレイングを行う（対話）

相談を「する側」は誰に相談したいか選び、「される側」がその人になりきって相談にのる。

失敗するかもしれないけれど、挑戦してみる。他の人の考え方に触れることで自分の中の思考の量が増えたり、自分の中の思考が書き換えられたりしていくことが、「選択する」能力で自己調整力になっていく。

Reflection(振り返り→自己の学びの変容)：振り返りシートに記入

対話を通して、自分とは違う考えの思考の量を増やすことで振り返りの内容も変容してくる。

(繰り返す中で)

- ・「ストレスがたまったときの対処方法はどうか」ロールプレイング前と後にアンケートを実施
生徒が回答した内容を、AIテキストマイニングを使用して共有をする。

【成果】

①相談のロールプレイングを行ってみて

- ・振り返りから、始まる前は緊張もしたけれど、いざ話してみると、聞く人が否定をせずに聞いてくれている安心感からか、たくさん話せたという意見が多く出た。
- ・ストレスがたまったときの対処方法はどうか、ロールプレイング前は「バット・殴る・ボコボコ・ぶん投げる」など人に迷惑をかけそうな言葉があったが、ロールプレイング後にはそのような言葉はなくなっていることに気付いた。相談という言葉が多く出たことにも、「ストレスをためないために、話すことが大事」「聞いてあげるのも大事」という意見が多く出た。保健のゴール

は、明るく健康な未来を作るための学習でもあるので、実生活に生かせることができる経験になったと考える。

②. 学校で実施している生活アンケートの変化

「学校生活で安心して話すことや相談ができる人はいますか」という質問に、「はい」と回答した割合が11月では88%だったのが、3月では91%と、微量だが多くなっていた。

質疑応答

質疑応答はなし。

協議の柱及び協議概要

1. 協働的な学び（対話的な学び）について（小・中学校）

- ・ 3～4人グループでの話し合いは、対話が活発になりやすくて良い。
- ・ 小学校だと上級生が下級生に教えることにより深い学びに繋げる異学年交流が活発に行うことができる。しかし、中学校や体育の授業における異学年交流の実現は難しい。また、単発的になりがちで、学校として継続していくことに課題を感じている。
- ・ 単元を絞って2学年合同で体育をやったところ、下級生に教えることで、子どもにとって意欲の向上につなげることができた。

2. 学びを実生活につなげる授業づくりについて（小・中学校）

- ・ 保健の内容自体実生活に直結しているため、よりイメージを抱きやすいと思った。
- ・ ゲストティーチャーとして養護教諭を呼ぶことで、いつもと違った雰囲気できて良い。また、男性だと話しづらいという課題が解消される。

まとめ概要

【提案者考察】

体育分野共に、授業の中で「対話」を大事にし、考えや意見、気付きや作戦などの「共有する場」を作ることができた。対話を通して、協働的に問題解決学習を行い、様々な変容に気付くことができたとき、思考を深めることができたのではないだろうか。そして、今回行った授業もそうだが、協働的な学びを全職員で意識し、人の意見を「聞く」ことや、自分の意見を「話す」ことなど様々な形での「対話」を授業の中で体験させてきた結果でもありと考える。

主体的な学びは、学びに向かう力を刺激する様々な工夫・仕掛けが大事になってくる。それは問を題材化する工夫（問を揺さぶる）・試行錯誤できる環境（AAR）・切実感ある課題設定・多様な学びの提供・文字言語での振り返りなどがある。教師の考える、学びに向かう力を刺激する様々な工夫が、生徒は学んだ手ごたえとして、学ぶ「意欲」から学ぶ「意思」へと変わり、生涯にわたり能動的に学び続ける力を身に付けていくだろう。